

令和7年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立調布大塚小学校

Ⅰ 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・授業で行った内容や考えたことをノートやタブレットを使って説明する場面を設定したことで、思考が深まった。
- ・ICT 機器を用いて映像資料等を活用して学習用語等を復習したことで、知識・技能の定着につながった。

(2) 課題

- ・他の項目に比べて知識・技能の項目が、目標値の上回りが小さい。これは、自然の事物・現象についてのイメージや素朴な概念などを、既習事項や生活経験、観察、実験などの結果から導き出した結論と意味付けたり、関係付けたりすることが十分にできていなかったことが要因と考えられる。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率(経年比較)

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	≡		
第5学年	≡	≡ (第4学年時)	
第6学年	△	△ (第5学年時)	≡ (第4学年時)

(2) 分析(観点別)

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・目標値と比較するとわずかに上回っている。	・目標値と比較すると上回っている。	・自然を愛する心情を養い、主体的に問題解決しようとしている。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・目標値と比較すると上回っていた。	・目標値と比較すると上回っていた。	・自然を愛する心情を養い、主体的に問題解決しようとしている。

3 授業改善のポイント(観点別)

(1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・植物の育ち方には一定の順序があることを理解するために観察カードを掲示したり、タブレットでデータとして保存したりして、成長による姿の違いを比較できるようにする。 ・教科書に載っているデジタルコンテンツで、温度計や方位磁針の使い方についての動画や資料を活用したり、実験・観察で繰り返し使ったりする場面を設定する。 ・習得させたい知識・技能を児童同士で説明する場面を設定する。	・既習事項を基に観察、実験を行い、自分の考えを説明させる。観察記録や実験データを表に整理する際には、ノートやタブレットで表現しやすい方法を選択させる。 ・探究的な活動をする場面では、差異点や共通点を基に問題を見出したり、身近な自然現象の中から予想や仮説を立てたりする場面を設定する。	・植物の栽培や昆虫の飼育という体験活動で感じたことを共有し、その意義を振り返る時間を設定する。 ・その日の天気を毎回ノートに記録している児童や雨上がりの校庭の様子を思い浮かべる児童など、日常生活と関連させている児童の発言・考えを価値付け、学んだことを学習や生活に生かそうとする態度を育てる。

(2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・実際の台風の情報を集めて台風の進み方について説明したり、防災に活用したりする場面を設定する。 ・観察・実験でわかったことや感じたことをグループで具体的に説明しあう場面を設定する。 ・ふりこの周期はふりこの長さに関連していることを理解するために、ICT 機器を活用し実験記録を保存し見返す場面を設定する。	・立てた仮説が正しいと仮定したときの実験結果を推測し表現できるようにする。 ・自然の事物・現象について、学んだ知識を用いて、科学的な言葉で説明させる場面を設定する。	・生物の栽培・飼育の体験を通して、生物を愛護しようとしたり、生命の連続性や神秘性を探究することで生命を尊重しようとしたりする態度を育てる。 ・観察・実験の結果を基に、他者と意見を共有し試行錯誤を繰り返しながら、粘り強く問題解決しようとする態度を育てる。